

江戸時代の黒坂を知る

日野郡の歴史セミナー

私たちが暮らしている日野郡の歴史について深く学ぼうと、1月17日、日野郡の歴史セミナー（日野総合事務所県民局主催）が町公民館で開かれました。

今回は、郷土史家の牧智也さん（黒坂）を講師に、「黒坂城」をテーマにした講座が行われ、町内を中心に約30人が参加しました。

牧さんは、江戸初期の黒坂陣屋や黒坂城の成り立ちを古文書や古地図などを使って解説し、また、「歴史を知るだけでなく、私たちの子孫のために、皆さんが人生の中で見聞きしたことをぜひ書き残しておいてほしい」と語りかけました。



貴重な江戸時代の黒坂の地図を見ながら解説

不思議なファンタジーの世界

さん・ふいー るご公演「真昼の月」

町内で活動している劇団、お芝居くらぶさん・ふいーるご（佐野咲百合代表）のチャリティー公演「真昼の月」が、1月20日、21日の2日間、町文化センターで上演されました。

物語は、主人公の青年・那月に古代人の人格が現れたことから起こる不思議な出来事と、那月が思いを寄せる陽との恋を描いたファンタジー作品で、7人の出演者からはそれぞれの個性を生かし熱演、集まった計160人の観客から温かい拍手が送られました。

この公演の収益金の全額は骨髄移植推進財団に寄付されることになっています。さん・ふいーるごでは、こうしたチャリティー公演を2001年から続けています。



暗闇に浮かび上がる印象的な舞台

自然の恵みに感謝



「1、2、3...」と、順番にもちをつく

根雨小もちつき収穫祭

収穫を祝い、自然の恵みに感謝しようとして、1月22日、根雨小学校（石脇昭弘校長）でもちつき交流会が開かれ、全校児童と保護者らが参加しました。

この日使ったもち米は、農業生産学習として学校近くの水田で児童らが栽培したもの。開会式では、生徒代表として加藤梨馨さん（5年生）が「今年も待ちに待った収穫祭です。みんな楽しんでもちつきをしましょう」とあいさつした後、にぎやかにもちつきが行われました。

つきあがったもちは、雑煮、ぜんざい、きな粉もちなど好みの味付けにして全員で試食しました。

ジゲの芸術家の作品ずらり

金持婦人会作品展

金持地区住民の手づくりの品々を展示する、金持婦人会（若林恵美子代表）主催の作品展が、1月28日、金持公民館で開かれました。

金持地区で作品展を開くのは今回がはじめてのこと。出品されたのは、地元的女性たちが作った押し花、パッチワーク、編み物、お手玉、前掛けなどの手芸品。

作品展には金持地区住民をはじめ、町内から約40人が訪れ、ずらりと並んだ力作の数々を前に、お茶のサービスを受けながらのおしゃべりも交え、楽しく作品を觀賞していました。



額に収められた押し花をゆっくり楽しむ

真冬の日野川で心身の鍛錬

錬成会館空手寒げいこ

新年を迎え、新しい気持ちで心身を鍛えようと、日本少林寺流空手道錬成会館鳥取県支部（音田守支部長）主催の寒げいこが、1月28日に開かれまし

た。真冬の恒例行事になっていく寒いこも今回で23回目。はじめに町文化センターで開かれた屋内げいこでは、音田支部長がこれまでの寒げいこで学んだことは、油断大敵ということ。最後まで気を抜かないように」とあいさつしました。

参加したのは、鳥取県支部をはじめ、大阪、兵庫地区本部からの参加者を含めた約60人。基本の突きなどの稽古や型の披露などで体を温めた後、「A日野支所下の日野川へ移動、身を切る冷たさの川に次々に入っていく、大声で気合を入れながら拳を突き出して稽古を行い、一層の精進を誓いました。」



寒さを我慢して「エイ、ヤー！」



願いを込めて豆をまく

悪い鬼を追い出そう！

黒坂保育所豆まき

立春の前日である2月3日の節分を前に、2月2日、黒坂保育所で豆まきが行われました。

園児たちは手づくりの鬼のお面をかぶって集まり、保育士から豆まきの説明や、「おにとおひやくしょうさん」のおはなしを聞いた後、自分の中にいる「追い出したい鬼」を発表しました。子どもたちは「風邪引き鬼」「怒りんぼ鬼」「弱虫鬼」など、元気に答えていました。

最後にはテラスから園庭に向かって「鬼は外！」と唱えながら炒った大豆をまき、今年も元気で過ごせるよう願いました。

5年前から復活、恒例行事に

伝統奇習行事「ほとほと」

菅福地区に古くから伝わる伝統奇習行事「ほとほと」が、2月10日、同地区内で行われました。

これは、地元の男性がみのかさ姿のほとほとと役にふんし、今年厄年を迎えた人の家に訪問して厄落としをするというもの。地元では30年程前から行われなくなっていたものを5年前に復活させ、今では冬の恒例行事になっています。

今年も10戸の家庭を訪問。まずほとほと役が厄落としのわら細工を縁側においていったん引き返します。家人がわら細工を家の中に入れ、代わりにお礼の品物を縁側に置くと、ほとほとがそれを受け取りに再び訪れ、品物を持って帰るところを家人が冷水を浴びせかけます。

水をかけることが厄払いになるということで、訪れた家では、家族そろって勢いよく水をかけ、厄落としの祈願をしていました。



そうきに入った厄落としの品を置くほとほと役